

# スイスウォール 設計・施工仕様書



施工前に必ずご確認をお願いします。

スイスウォールの設計・施工前には必ず本書を確認ください。また、寒冷地や特に気温の低いエリア等、地域により施工条件が変わる場合があります。詳しくは、弊社までお問い合わせください。

2023年6月 改訂



株式会社イケダコーポレーション

# スイスウォール 設計・施工仕様書

## 目次

---

### はじめに .....

P. 3 はじめに・注意事項

P. 4 よくあるトラブル事例と対策

### 設計 .....

P. 6 特に重要な注意点(設計・施工)

P. 7 設計チェックシート

### 外装施工 .....

P. 8 外装施工の流れ(通気工法の場合)

P. 9 施工チェックシート

P.10 軽量モルタル下地の作りかた

P.12 ミネラル下地材／ミネラルファインの施工方法

P.13 カルクファサードの施工方法

### 内装施工 .....

P.14 施工上の注意

P.15 内装施工の流れ(新設石膏ボードの場合)

P.16 石膏ボードの貼り方

P.18 下地処理

P.20 カルクウォールの施工方法

P.21 カルクウォール施工手順

P.22 リフォームでの施工手順

P.23 カルククリーム施工手順

### メンテナンス .....

P.24 内装メンテナンス方法

P.25 外装メンテナンス方法

P.26 外装の定期的なメンテナンスについて

P.27 テクスチャーの仕上げ方

P.28 スイスウォール製品ラインアップ

## はじめに

スイスウォールは400年以上の歴史を持つ本漆喰です。本漆喰の特徴は、漆喰に含まれるカルシウムが100年近くの年月を経て二酸化炭素と結合する「再石灰化」にあります。それにより数百年以上の耐久性が生まれ、結合材や合成樹脂などの化学物質を一切必要としない、天然100%の安心安全な素材のみで作られています。

スイスウォールは、何世代にも渡り快適に住み継ぐことができる美しい壁を保ちます。その反面、硬化が緩やかで施工後の安定化まで時間を要し、この間の不安定な状態でのトラブルが発生しやすいことも事実です。この本漆喰の特性に配慮した設計と施工が必要であることをご理解いただき、ご使用ください。

### 必ずお読みください

冬季、気温が低い場合（5℃以下）色ムラが発生しやすいので、ご使用はおやめください。  
万が一施工し色ムラが発生した場合、弊社は責任を一切負えませんのでご了承くださいませ。

#### 安全上の注意

- 目や口に入らないよう、注意してください。目や口に入った場合、直ちに大量の水道水で洗い流してください。その後、病院で治療を受けてください。
- 肌に長時間付着すると、アルカリ性により肌が炎症を起こす場合があります。肌に直接付着しないように作業着を着用してください。または付着後すぐに水で洗い流してください。
- 子供の手の届かない所に保管してください

#### 注意事項

- ① 製品の保管は乾燥した冷暗所にて行ってください。
- ② 震動を伴う作業はスイスウォールの施工前に済ませてください。
- ③ スイスウォール施工後の住宅設備機器等の取り付けは、細心の注意をはらってください。

※最新情報は弊社ホームページでご確認ください。

### << 立地について >>

- ① 近年の気候変動の影響を受け、地域降水量の増加、長期間にわたる降雨、強力な台風の発生など、特に建築地周辺が田畑、水路や川、山間部、道路沿いの場合は、浮遊する各種菌類や無機系のゴミなどが付着する恐れがあります。それらの付着を抑える対策が必要となります。
- ② 寒冷地や湿度の高い地域での外部施工は避け、臨海地域では塩害への影響を考慮して対策を行ってください。

## よくあるトラブル事例と対策

### 雨だれなどの汚れ

スィスウォールは静電気を帯びず、強アルカリ性の特性により空気中のほこりや汚れを寄せ付けにくく、有機的な汚れは自然の力でゆっくり分解します。しかし、立地によっては空気中のホコリやばい煙により汚れが目立つ場合があります。また、漆喰が湿気た状態では強アルカリ性が中和化するため、汚れの分解ができなくなります。



汚れを予防するためのサッシ下の水切り、サッシ上の霧よけ、排気口下の水切りなどの設置が効果的です。

### 白華現象

白華現象とは、スィスウォールに含まれるカルシウムが雨水などに溶けて表面に運ばれ、白い粉の結晶となったものをいいます。白華は、漆喰やモルタルを使用する場合に必ずといって良いほど起こる現象で、完全に避けることはできません。反面、白華が起こる漆喰はカルシウムが豊富に含まれているともいえ、より強度がある漆喰の特徴でもあります。長期の耐候性や品質には一切問題がありません。

→補修方法はP.26。

#### 白華を防ぐために

- ①軽量モルタル下地の養生期間を確実にとり、十分に乾燥させた状態で仕上げ施工を行う。
- ②軒の出は450mm以上を推奨。
- ③施工中や乾燥過程で外気温が5℃以下になる場合は施工を避ける。
- ④湿度が高く(85%以上)漆喰が乾燥しにくい気象条件下での施工は避ける。
- ⑤漆喰の乾燥後に上から呼吸性のある撥水剤を塗布すると、ある程度の効果が得られやすい。
- ⑥濃色のカルクファサードは、白華する可能性が非常に高いため冬季の施工を推奨しない。

### クラック(ひび割れ)

地震や住宅のゆがみ、道路の揺れなどで漆喰にクラックが入ることがあります。クラック部分は後から補修ができます。



#### クラックを防ぐために

- ①軽量モルタル下地の十分な養生期間をとる。
  - ②開口部他のラス網による補強を行う。
  - ③漆喰仕上げ施工時から数日間の天候と温度に配慮する。
- 補修方法はP.24

## 剥離

漆喰は化学的な塗り壁材と異なり、接着剤の類や硬化剤などを含みません。二酸化炭素がカルシウムと結合することで緩やかに硬化し強固な壁になります。それゆえ、施工後、数週間は乾燥しているように見えても、実際にはカルシウムが不安定で結合が十分ではありません。この不安定な時期の台風や大雨、強風、高温などは、漆喰の硬化に影響を与え数年後の剥離などの原因になることがあります。特に施工後の数日間は重要ですので、天候に配慮し十分な養生期間がとれる時期に施工を行ってください。

→補修方法はP.26。



### 剥離を防ぐために

- ①軽量モルタル下地の十分な養生。
- ②軒の出は450mm以上を推奨。
- ③漆喰施工時から少なくとも2-4日間の気候や天候に配慮し、雨雪に当てない。
- ④サッシ上部の霧よけの設置、屋根や庇、軒下に収まるベランダを推奨する。ベランダの笠木のチリを30mmにする。
- ⑤樹脂サッシ、十分に充填された断熱材を使用する。
- ⑥常に雨や雪が接しないよう、設計に配慮する。

## 凍害

凍害は、雨（梅雨時期）や積雪により水平面など雨水などが溜まりやすい部分で、スイスウォールに含まれる水分が凍結膨張し下地との密着部分を剥離させます。また、同様にアルミサッシ窓枠や断熱材の少ない部分は結露が発生しやすく、水分の凍結膨張による剥離の危険性が高まります。

→凍害については弊社までご相談の上、補修いただくようお願いいたします。

### 凍害を予防するために

寒冷地での外壁施工は避けてください。

- ①軒の出を450mm以上取り、雨が当たりにくいようにする。  
(※450mm以上取ったからといって万全ではございません。外壁に雨水が当たらないように適切な処置を行ってください)
- ②下地の軽量モルタルの養生を冬期は8週間以上行う。
- ③バルコニーなど雨がかかりやすい部分には漆喰を使わない。
- ④雪、雨が長期間接触する状態、頻繁に伝わって落ちる場所を設計上作らない。
- ⑤アルミサッシは避け樹脂又は木製サッシを使用する。

## 塩害

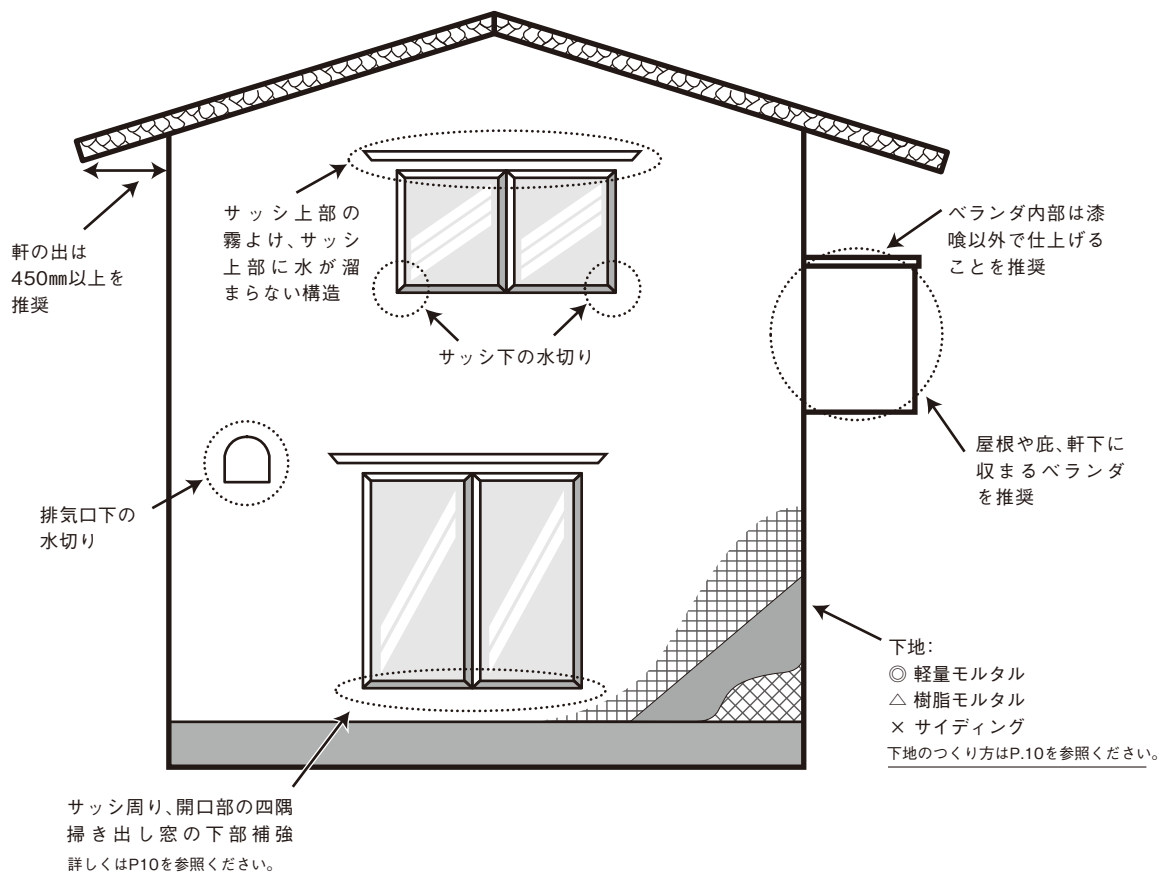
- ・海水（主に塩化ナトリウム：NaCl）を含んだ水が漆喰表面に付着した場合、乾きづらくなり湿った状態がより長く続くことで悪影響がでます。
- ・空気中の汚染物質によるクラック、辺縁部のコーキングやシール部分の劣化がラス下地（金網）部分の錆びを引き起こし、茶色いシミが発生することがあります。

### 塩害を予防するために

寒冷地での外壁施工は避けてください。

- ①臨海地域では潮風を避けるため、防風林として比較的高い木を植える。
- ②壁面との間と下がりを取り、壁に雨水が伝わらないように雨仕舞を調整し、内側傾斜にして汚れを目立たない外へ逃がすなど+雨仕舞の改善を行う。

## 注 意 特に重要な注意点(設計・施工)



### ▲ 設計時の注意点

|        |  |
|--------|--|
| ■ 軒の出  | 軒の無い建物には使用回避。軒の出が450mm以上ある建物での使用を推奨。             |
| ■ ベランダ | 屋根や庇、軒下に収まるベランダを推奨。<br>ベランダの内側は漆喰以外で仕上げることを推奨する。 |
| ■ その他  | サッシ上部の霧よけ、サッシ下、排気口下の水切りを推奨。                      |
| 着 色    | 白華現象による色むらが起こる可能性がある。                            |

### ▲ 施工時の注意点

|        |  |
|--------|--|
| ■ 下地種類 | ○ 軽量モルタル推奨    × サイディング不可    △ 樹脂モルタル(使用条件限定)   |
| ■ 補強   | サッシ周り、開口部の四隅ラス網補強、掃き出し窓の下部補強や誘発目地を施す。<br>出隅ラスを二重貼りにする。<br>軽量モルタルに耐アルカリ性メッシュを全面伏せ込み。(詳しくはP10～P11を参照ください。) |
| 気 温    | (冬季)日中温度5℃以下    (夏季)30℃以上での施工は避ける。   |
| 養生期間   | 冬季は施工後4日以上、夏季は2日以上雨や雪との接触を避ける。   |



## 設計チェックシート

| No. | 項目  | チェック欄                    |
|-----|---|--------------------------|
| 1   | サイディング下地は不適。軽量モルタル下地を推奨。樹脂モルタルの使用はできる限り避ける。   | <input type="checkbox"/> |
| 2   | 軒の出が450mm以上の建物に使用することを推奨。軒なしは回避。  | <input type="checkbox"/> |
| 3   | 雨、雪がたまりやすい平面部での漆喰の使用は避ける。また雪が当たる部分にも使わない。   | <input type="checkbox"/> |
| 4   | アクが出るためウッドデッキなど木と漆喰が直接触れないように縁を切る。特にレッドシダーなど、アクが出やすい樹種の採用には注意が必要。                                     | <input type="checkbox"/> |
| 5   | 濃色で着色して仕上げる場合、色ムラ、白華が発生する率が高い。  | <input type="checkbox"/> |
| 6   | 左官コテを使って仕上げる。ローラーでの仕上げは不適。  | <input type="checkbox"/> |
| 7   | ベランダなどの笠木は内側に傾斜をつけ、壁とのチリ30mm垂壁60mm以上にし、雨水の汚れが外壁に付着しにくくする。   | <input type="checkbox"/> |
| 8   | 換気扇の排気口の下やサッシ下の水切り、またはサッシ上に霧よけを付けることで局所的な雨だれを防ぐ。また、漆喰の石灰が水で流れる場合があるため水切りは白色を推奨(石灰が流れても漆喰の性能には影響しません)。 | <input type="checkbox"/> |
| 9   | ベランダの内側など湿気がたまりやすい場所はカビ発生の原因となるため、漆喰以外で仕上げる。  | <input type="checkbox"/> |
| 10  | 寒冷地、湿度の高い地域では外壁への使用を避ける。  | <input type="checkbox"/> |
| 11  | 外構に採用する場合、必ず笠木と地面から300mmの巾木を設置する。ブロック下地の場合、モルタルの表層部に耐アルカリ性メッシュを伏せ込み下地を補強する。                           | <input type="checkbox"/> |

## 外壁施工の流れ(通気工法の場合)

木造戸建て住宅を想定した外壁施工の実働日数の目安です。防水シート、胴縁まで終えた状態からの流れで、天気、温度等の諸条件により左右されます。

軽量下地モルタルの施工方法や養生期間等は、製造メーカーの仕様に従ってください。

| 施工順 | 施工内容  | 所要日数                    | 合計所要施工日数                  |
|-----|---|-------------------------|---------------------------|
| 1   | 紙付波型<br>ラス網張り   | 2日                      | 夏5～6週間<br>冬9～10週間<br>(目安) |
| 2   | 軽量モルタル塗り<br>下塗り・上塗り<br>(※ 下塗りと上塗りの養生期間は、<br>製造メーカーの仕様に従ってください。)   | 2～4日                    |                           |
| 3   | 耐アルカリ性メッシュの<br>モルタル伏せ込み   |                         |                           |
| 4   | モルタル養生  | 夏:4週間<br>冬:8週間          |                           |
| 5   | ミネラル下地材の<br>施工<br>                 | 1日                      |                           |
| 6   | スイスウォールの<br>仕上げ<br>・カルクファサード施工<br> | 2～3日                    |                           |
| 7   | 仕上げ後の雨養生  | 施工後<br>夏:2日以上<br>冬:4日以上 |                           |



# 施工チェックシート

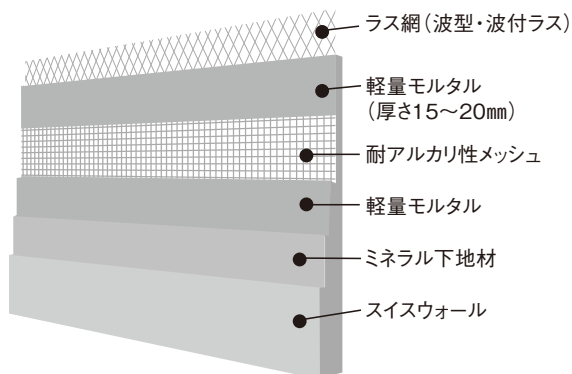
| No. | 項目  | チェック欄                    |
|-----|---|--------------------------|
| 1   | サイディング下地は不適。軽量モルタル下地を推奨。樹脂モルタルの使用はできるだけ避ける。                     | <input type="checkbox"/> |
| 2   | モルタル下地の灰色が完全に隠れるまでミネラル下地材をしっかり塗る。                               | <input type="checkbox"/> |
| 3   | ウッドデッキなど木と直接触れると木のアクが漆喰に移り汚れるため縁を切る。                            | <input type="checkbox"/> |
| 4   | 濃色で着色して仕上げる場合、天然成分による色ムラ、白華の発生率が高い。                             | <input type="checkbox"/> |
| 5   | 掃き出し窓の下の誘発目地、窓、ドアの四隅をラス網で補強しクラックを回避する。                          | <input type="checkbox"/> |
| 6   | 外気温が5℃以下、30℃以上での施工は絶対に避ける。                                      | <input type="checkbox"/> |
| 7   | 漆喰仕上げ後の養生期間を十分とる。<br>(夏場は施工後2日以上、冬場は施工後4日以上)                    | <input type="checkbox"/> |
| 8   | 軒の出が450mm以上ある建物に使用することを推奨(軒無しは回避)。                              | <input type="checkbox"/> |
| 9   | 外壁の下の地面に土が露出していると、雨の跳ね返りによる外壁への泥はねが起るため、仕上げ前に地面を人工芝、バラスなどで養生する。 | <input type="checkbox"/> |
| 10  | 仕上げパターンは施主立ち会いの下、確認し了承を得る。                                      | <input type="checkbox"/> |
| 11  | 夏場、モルタル下地が高温になっている場合は水などで一旦温度を抑え、日陰から施工する。                      | <input type="checkbox"/> |
| 12  | 汚れを高圧洗浄機で落とさない(漆喰が剥離する場合があります)。                                 | <input type="checkbox"/> |
| 13  | 漆喰の乾燥過程で白っぽい水(石灰)が流れる場合があるので、施工前に水切りを養生する。                      | <input type="checkbox"/> |
| 14  | ミネラル下地材は飛着しやすいので、事前にサッシや換気口など養生を十分に行う。                          | <input type="checkbox"/> |
| 15  | 外気温が0℃以下になる場所や風にさらされる場所、または外気温が30℃を越える場所での商品の保管は避ける。            | <input type="checkbox"/> |
| 16  | 雨による汚れやアクの汚れが出るので、笠木設置前には雨養生し雨どいや笠木などは塗装前に設置する。                 | <input type="checkbox"/> |

## 軽量モルタル下地の作りかた

### ラス 軽量モルタル

在来工法やツーバイフォーなどの木造建築では、クラックを防ぐため強固な下地づくりが必要です。

※ それぞれの工法は各住宅工事仕様書の規定に従い施工してください。



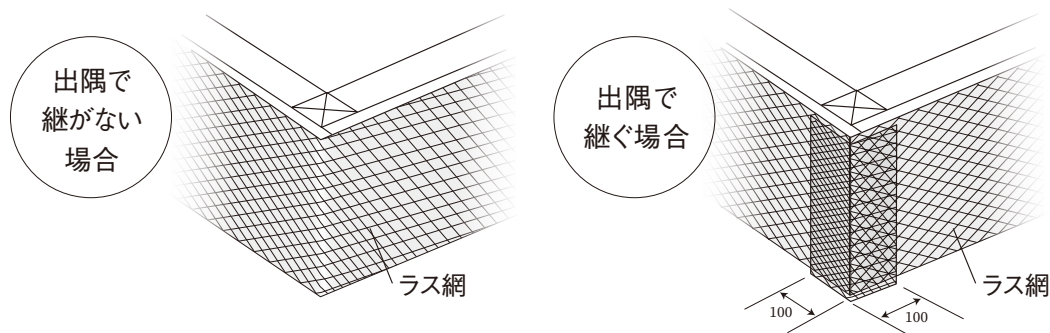
### 施工手順

#### 1. 塗り壁、モルタル専用の透湿 防水シートを使用

※ ご使用商品の施工要領を厳守してください。

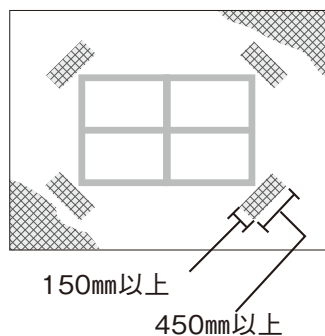
#### 2. ラス網は、波形・波付ラスを使用

- ラス網のジョイント部分の重ねシロは30mm以上とし、膨らみのないよう平滑に張り上げてください。
- タッカー釘はJIS A 5556(工業用ステープル)に適合する1019J(0.6×1.15×19mm)以上で留め、間隔を70mm以内に打ち、膨らみやタルミの無いように留めてください。
- 出隅・入隅の処理は折り曲げ施工とし、継ぎ合わせ施工は避けてください。継ぎ合わせになる場合は200mm幅以上の平ラスを中央から折り曲げ、上から重ね張りしてください。



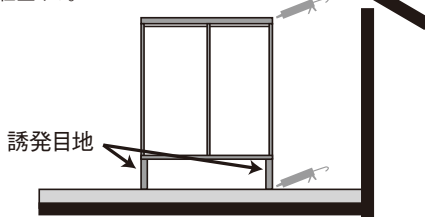
- 開口部には、上から150mm×450mm以上の平ラスを開口部の各コーナーに近づけて斜めに二重張りしてください。
- 掃き出し窓の下部はクラックが入りやすいので、モルタル下地から仕上げまで「誘発目地」を入れてください。または掃き出し窓の下部に沿って横胴縁を入れ、サッシを固定した上でL字のラス網を重ね張りし補強を行ってください。
- サッシ上部などの雨などが溜まりやすい部分は、コーキングを10mm以上施し、水分が漆喰部分に長期間接触しないように施工してください。

#### 開口部の補強



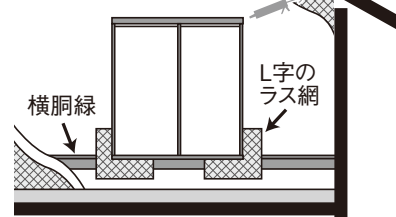
#### 掃き出し窓の下地補強

掃き出し窓の下部は左右とも、角部分にモルタル下地から誘発目地を入れる。コーキングで埋め、目地には漆喰を塗らずに仕上げる。



#### 掃き出し窓の下部に

沿って横胴縁を入れ窓を固定する。L字のラス網を重ね張りし補強する。

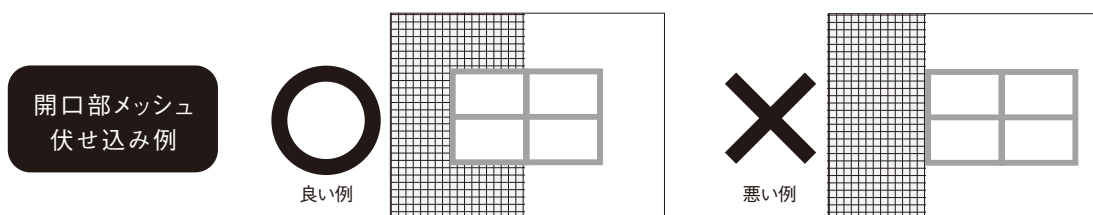


3. 軽量モルタルが波形・波付ラスによく絡まるように、厚さ15～20mmを目安に押さえ塗りしながら塗りつけます。

※モルタルの厚さは、ご使用商品の施工手順及び地域の防火条例に従って施工してください。

4. 軽量モルタルが乾かないうちに、耐アルカリ性メッシュを表層部に伏せ込みます。

- 軽量モルタルの収縮によるクラックを防ぐため、メッシュは表面部分に伏せ込み、メッシュの目から下のモルタルが上がるようにコテでしごきます。
- 開口部のコーナーは、耐アルカリ性メッシュをコの字型にカットして伏せ込みます。
- 開口部のコーナーや出隅、入隅は割れやすいため、耐アルカリ性メッシュで確実に補強してください。



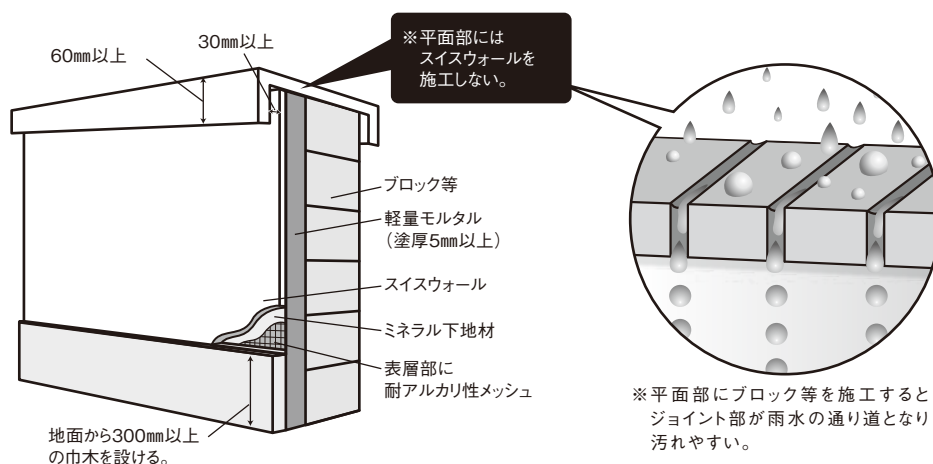
5. モルタル施工後は養生期間を確実にとり、十分に乾燥させてください。

**夏季は4週間、冬季は8週間以上**

- スイスウォールの下地には、適度な吸水性が必要です。また、スイスウォールと軽量モルタルが持つ水酸化カルシウムは月日の経過と共にしっかりと密着します。そのため、吸水性の無い躯体（サイディング、樹脂系モルタル）への施工は避けてください。
- 泥はねによる壁面汚れを予防するために、バラスや人工芝などで壁下の地面に雨養生をしてください。

その他の注意事項.....

- コンクリートやブロック・レンガ下地の場合にも、軽量モルタルによる下地処理が必要です。また、クラック防止の為に、モルタルの表層部に耐アルカリ性メッシュを伏せ込んでください。
- 外構部や庇に収まらないベランダ部分には、必ず下記の様な笠木を設け、水の浸透を避けてください。また地面に接するところはスイスウォールが地面の水分を吸い上げないように、巾木(地面から300mm以上)を設けてください。



## ミネラル下地材／ミネラルファインの施工方法

### 施工の前に

- ミネラル下地材は下地の吸い込みに応じて無希釈で十分攪拌して使用し、下地が隠れるまで塗ってください。
- 風の強い日、下地湿度及び外気温が高い日はドライアウトの原因となるので注意して下さい。
- 施工、乾燥中に外気温が5℃以下になる日の施工は避けてください。
- 塗装中にミネラル下地材／ミネラルファインの骨材が沈殿するので攪拌しながら施工してください。
- ミネラル下地材／ミネラルファインは乾燥すると固く密着します。事前にサッシや換気口、施工周辺の養生を確実に行ってください。

1. ミネラル下地材／ミネラルファインをよく攪拌する。  
(5分程度)



2. ローラーで下地が完全に白く隠れるまで塗布する。

|      | カルクファサード施工                 | ファルベ施工(メンテナンス)              |
|------|----------------------------|-----------------------------|
| 使用商材 | ミネラル下地材<br>(15kg)          | ミネラルファイン<br>(10kg)          |
| 塗装面積 | 約40～50㎡<br>(0.3～0.375kg/㎡) | 約35～40㎡<br>(0.25～0.286kg/㎡) |

※ いずれの場合も密着力が低下するため、上記の塗装面積以上に塗り伸ばさないでください。



ローラーでモルタルが完全に白く隠れるまで塗布する。

3. 乾燥した気候で24時間以上充分に乾燥させる。



### 施工のポイント

軽量モルタル下地の灰色が見えなくなるまでミネラル下地材で真っ白に塗りつぶすことで、水引きが安定し、より密着力が上がるため施工トラブルを避けられます。

# カルクファサードの施工方法

## 施工の前に

- 夏季は2日以上、冬季は3日以上晴天が続く日を選んで施工してください。
- 風の強い日、下地温度及び外気温が高い日はドライアウトの原因となるので注意して下さい。
- 施工中、乾燥中に外気温が5℃以下になる日の施工は避けてください。
- 濃色で着色して仕上げる場合は、必ず色ムラが発生します。自然素材による特徴ですので予め施主の同意を得た上で施工して下さい。

1. カルクファサード1袋(25kg)を大きな容器に入れ、水6～8ℓと調合する。攪拌機で柔らかいクリーム状になるまで十分に攪拌する。



※着色する場合、クリーム状の段階で天然顔料ウラ(No.410)をカルクファサードに加え十分に攪拌し水で塗りやすい硬さに調整する。

2. 水で練ったカルクファサードを15分程度寝かせる。

※攪拌ムラによるダマができないようにするため。



3. 再度、攪拌機で3分ほど攪拌する。



4. 乾燥したミネラル下地材(P.12ミネラル下地材の施工方法参照)の上から、カルクファサードをコテで下塗りする。



5. 下塗りした直後、カルクファサードが乾かないうちに、カルクファサードを上塗りする。  
塗り厚は骨材1.0mmタイプで2mm程度、骨材2.0mmタイプで4mm程度に塗る。  
(施工の注意:コテで何度もこすると艶ムラが出ます。)



6. 施工後は夏場は2日以上、冬場は4日以上雨を避け養生する。湿度の高い梅雨時は3日以上雨を避け養生する。



## 施工のポイント

- ・攪拌する際は、1度攪拌し、15分程度置いてもう一度攪拌することで、ダマが無く密着性の高い漆喰壁になります。
- ・カルクファサードは水硬性のため練り置きはできません。

## 内装施工上の注意

冬季、気温が低い場合（5℃以下）や乾燥状態が悪い場合、色ムラやアクが出やすくなるため、使用を推奨いたしません。万が一施工し色ムラが発生した場合、弊社は責任を一切負えませんのでご了承くださいませ。

スイスウォールの乾燥中は室内に大量の湿気が発生するため、こまめに換気をしてください。また、気温の低い日や湿気の多い日には、除湿可能面積の大きい除湿機の使用を推奨します。

急激な乾燥はクラックの原因になるためご注意ください。

振動を伴う作業はスイスウォールの施工前に済ませてください。

浴室などスイスウォールが乾燥しづらい場所への施工は、剥離などの不具合を招くため施工を避けてください。

コンロ周りへの施工は、油はねなどの汚れが付きやすくなります。

スイスウォール施工後の住宅設備機器等の取り付けは、細心の注意をはらってください。

※寒冷地や特に気温の低いエリア等、地域により施工条件が変わる場合があります。  
施工上の詳しい情報は、弊社担当スタッフにお問い合わせください。

### クラックについて

塗り壁用の下地をつくることで大きなクラックを予防することはできますが、建物自体の動きは、部屋の入隅部分に力が集中し、クラックの発生しやすい場所となります。スイスウォールは石灰を原料にした純粋な無機系塗り壁材です。スイスウォールの特性を十分にご理解いただき施工をお願いいたします。

クラックの補修方法は「P.24 内装メンテナンス方法」をご覧ください。

## 内装施工の流れ(新設石膏ボードの場合)

木造戸建て住宅(約35坪)を想定した内装施工の実働日数の目安です。石膏ボードのビス打ちまでを終えた状態からの流れです。なお、所要日数は外壁同様、温度等の諸条件により左右されますので、目安としてご確認ください(冬季は5℃以下の施工の場合、室内温度と湿度のコントロールが必要になります)。







| 施工順 | 施工内容                                | 所要日数                     | 合計所要施工日数            |
|-----|-------------------------------------|--------------------------|---------------------|
| 1   | パテ処理+テープ張り<br>【下塗り・中塗り・上塗り】         | 3日程度<br>(メーカー基準<br>に準ずる) | 2～3週間<br>以内<br>(目安) |
| 2   | パテ処理養生                              |                          |                     |
| 3   | ミネラル下地材 塗布                          | 1日以内                     |                     |
| 4   | ミネラル下地材 養生                          | 24時間<br>以上               |                     |
| 5   | カルクウォール 塗布                          | 3日以内                     |                     |
| 6   | カルクウォール 養生                          | 1～2日<br>以上               |                     |
| 7   | 養生期間中は室温5℃以上及び<br>湿気がこもらないように常に換気する | ※7の条件下<br>の場合            |                     |

全ての作業にかかる人工によって、所要日数は異なります。上記はパテ処理2名、ミネラル下地処理1～2名、仕上げ3名以上を基準に算出した所要日数です。



# 石膏ボードの貼り方

## ボードの選定

| 種 別                | 強 度   | イ ラ ス ト   | 特 徴                             |
|--------------------|---|---|---------------------------------|
| テーパー ボード           |  |  | ○ パテの厚みが出にくい<br>○ ボード同士の密着強度が高い |
| ベベルボード<br>(Vボード)   |  |  | △ パテの厚みが出やすい                    |
| ジョイントボード<br>(平ボード) |  |  | × パテの厚みが出やすい<br>× ボード同士の密着強度が低い |

■ 12.5mm厚のボードを選定します。

※9.5mm厚の場合、ボードの歪みによるクラックが起こる可能性があります。

■ 保管状態の悪いボード、ホルムアルデヒドを吸収分解する特性をもつボードやベニヤ板等の上に紙を貼ったボードは、染み込んだ汚れが塗布後にアクとなり出てくるので使用は避けてください。

## ボードの貼り方

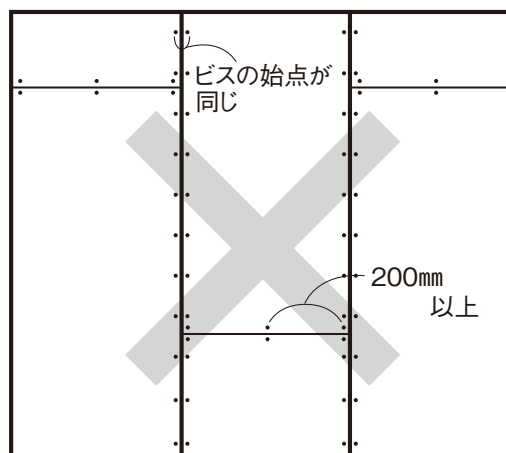
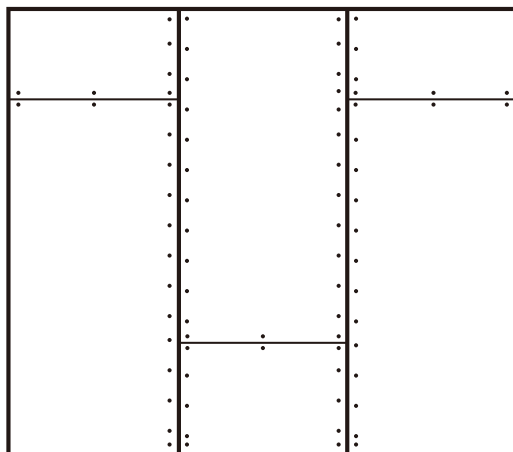
■ より割れない下地にするには、二重貼りを推奨します。

■ ベニア・コンパネ・石膏ボードは、それぞれ伸縮率が異なるためジョイント部分にクラックが発生しやすく、十分に考慮して施工してください。

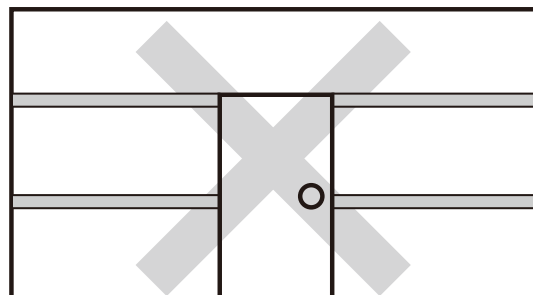
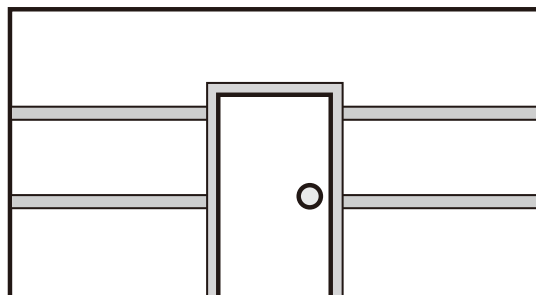
## ビス留めの間隔

■ ボードの継手部分は150mm以内の間隔でボードを平頭ビスで留める。胴縁施工(大壁)の間隔は455mm以内、間柱施工(真壁)の間隔は303mm以内とする。

■ 天井野縁の間隔は303mm以内とする。



## 受け木のまわし方

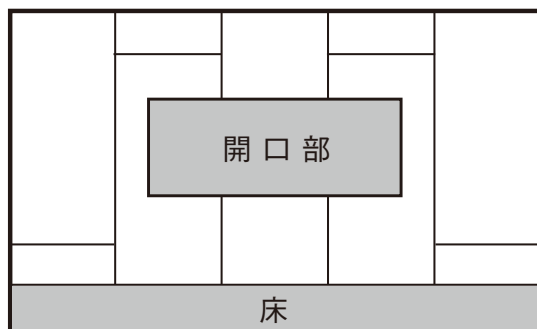


窓、ドアの周囲に受け木をまわす事で、ボードを固定し、割れを防ぎやすい。

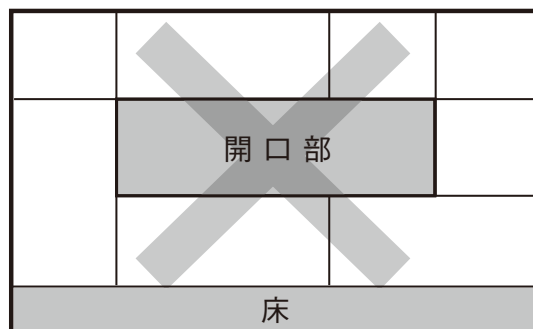


## ジョイントのつくり方

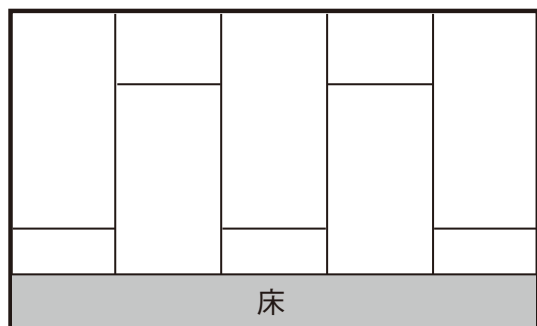
### 開口部



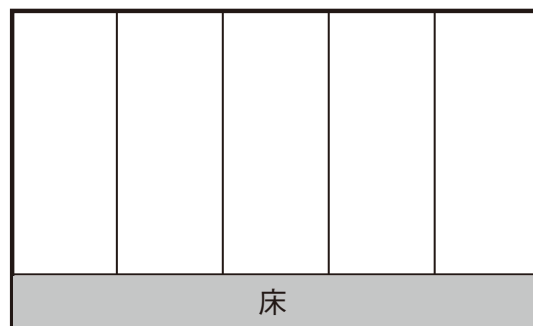
ジョイント部分が窓、ドアの延長線にあると、開閉の際の振動等でクラックが入りやすい。



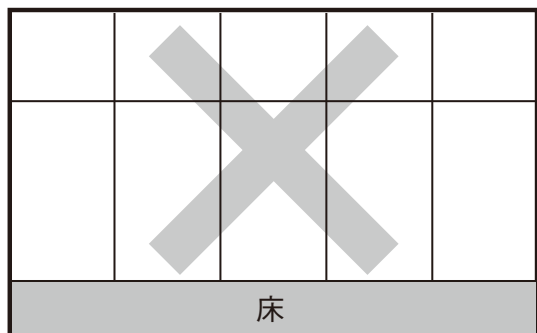
### 塗り壁に適したジョイント



千鳥貼り…ボードの継手に横目地が通らず十字にならないので動きが少なく割れにくい。

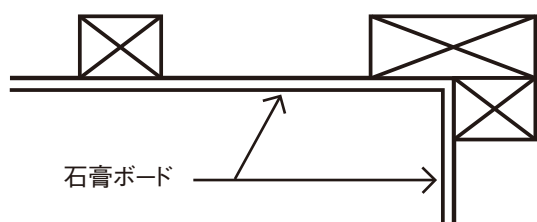


3×8ボードであれば横目地を無くすことができクラックを防ぎやすい。



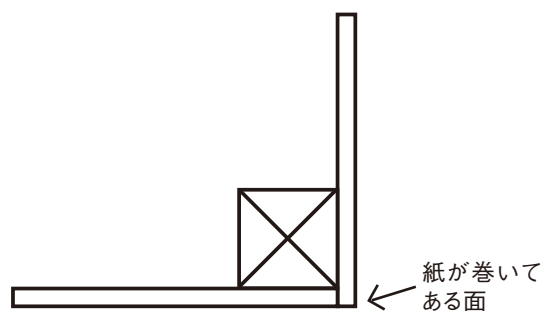
縦、横に目地が入ると動きやすくクラックが入りやすい。

### 入隅・出隅のつくり方



#### 入隅の補強例

入隅は木下地で補強する。

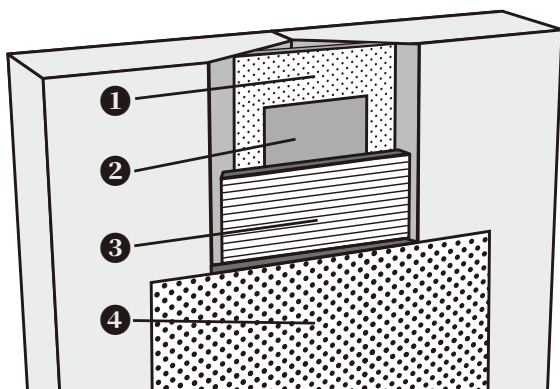


#### 出隅の納まり

出隅は吸水しやすいので、石膏ボードの切断面が出ないように紙が巻いてある面を使用する。

## 下地処理

### 石膏ボードの下地処理



- ① 下地パテ
- ② ファイバーメッシュテープ・ジョイントテープ
- ③ 中塗りパテ
- ④ 上塗りパテ

#### 推奨

##### テープ

MKブリッジテープ  
[メーコー(株)]  
他 グラスファイバー製テープ

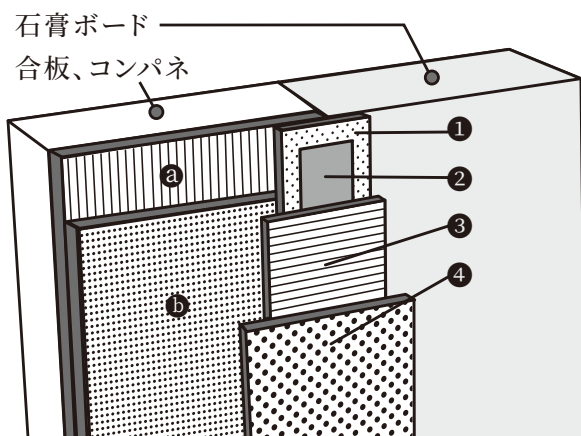
##### パテ

クリンナ ノンペーパーパテ  
[メーコー(株)]  
他 石膏系パテ

#### ⚠ 注意事項:

- ・ビス頭にも必ずパテ処理を行ってください。
- ・パテ面の凹凸や不十分な乾燥は、仕上がり後に照明や斜光によって色ムラに見える場合があります。パテを十分に乾燥させた上、ボード面とフラットになるようパテをサンドペーパーでサンディングし平滑に仕上げてください。
- ・ベベルボードの場合、最終仕上げのパテはジョイント部分から両サイドに300mm以上の幅で塗り広げてください。
- ・パテは痩せの少ない塗り壁用の石膏系パテでなるべく石膏ボードの色に近いものを使用してください(ビニールクロス用パテの使用を避け、硬化促進剤など硬化を早めるものは使用しないでください)。

### 合板・コンパネの下地処理及び、石膏ボードとのジョイント部分の処理



**a** ⚠ **カチオン系 アク止めシーラー**を2回以上塗る。

**b** 合板やコンパネ面を全面パテ処理する。

上記と同様に①～④の順にジョイントを処理する。

#### ⚠ 注意事項:

- ・アク止めシーラーは市販品をご購入の上ご使用ください。
  - ・アク止めシーラーの中には有機溶剤の臭いや、刺激の強い商品があります。アレルギー体質の方、小さなお子様がいる場合には細心の注意の上ご使用ください。
- 極度のアレルギー体質、過敏症の方はアク止めシーラーの製造メーカーへご相談ください。

#### 施工上の注意 .....

アク止めシーラーで処理してもアクが出る場合があります。  
アクが出た場合は上から「ファルベ」を補修材として塗布してください。(P.24 内装メンテナンス方法参照)

## 下地がモルタルやコンクリートの場合

- ① モルタルの養生期間を十分にとる。(1週間程度)
- ② **▲ カチオン系 アク止めシーラー** を2回以上塗る。

### ▲ 注意事項:

- ・ アク止めシーラーは市販品をご購入の上ご使用ください。
- ・ アク止めシーラーの中には有機溶剤の臭いや、刺激の強い商品があります。  
アレルギー体質の方、小さなお子様が居られる場合には細心の注意の上ご使用ください。  
極度のアレルギー体質、過敏症の方はアク止めシーラーの製造メーカーへご相談ください。

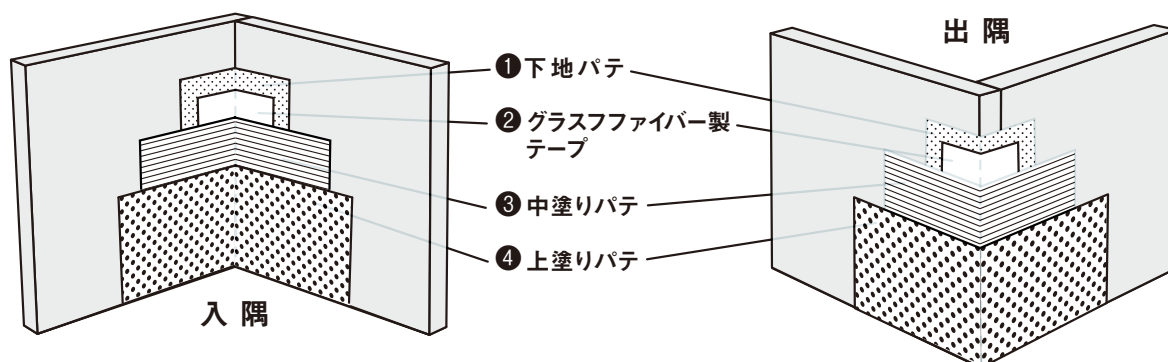
### 施工上の注意

アク止めシーラーで処理しても合板からアクが出る場合があります。

アクが出た場合は上から「ファルベ」を補修材として塗布してください。(P24. 内装メンテナンス方法参照)

## 入隅、出隅の処理

出隅・入隅共にコーナーテープを入れ割れにくい下地を作つくる。



※パテ面の凹凸又は不十分な乾燥は、仕上がり後に照明や斜光によって色ムラに見える場合があります。  
パテを十分に乾燥させた上、ボード面とフラットになるようパテをサンドペーパーでサンディングし平滑に仕上げて下さい。

※ベベルボードの場合、最終仕上げのパテはジョイント部分から両サイドに300mm以上の幅で塗り広げて下さい。

※パテは痩せの少ない塗り壁用の石膏系パテでなるべく石膏ボードの色に近いものを使用してください  
(ビニールクロス用パテの使用を避け、硬化促進剤など硬化を早めるものは使用しないでください)。

※ビス頭も必ずパテ処理を行ってください。

# カルクウォールの施工方法

## 施工の前に

- 夏季は2日以上、冬季は4日以上晴れが続く日を選んで施工してください。
- 風の強い日、下地温度及び外気温が高い日はドライアウトの原因となるので注意して下さい。
- 施工、乾燥中に外気温が5℃以下になる日の施工は避けてください。
- 濃い色で着色して仕上げる場合は、必ず色ムラが発生します。自然素材による特徴ですので予め施工主の同意を得た上で施工して下さい。
- 攪拌前に上澄みの水分量を加減することで漆喰の粘度を調整することができます。

1. カルクウォールを攪拌機で3～5分程度、柔らかいクリーム状になるまで十分に攪拌する。バケツの底は攪拌しづらいのでよく確認しながら攪拌する。



2. 着色する場合は、天然顔料ウラ (No.410) をカルクウォールのバケツに加え十分に攪拌する。



3. 乾燥したミネラル下地材 (P9ミネラル下地材の施工方法参照) の上から、カルクウォールをコテで下こすりする。



4. 下こすりしたカルクウォールが乾かないうちに、追っかけでカルクウォールを上塗りする。  
骨材0.5mmタイプで2mm程度、骨材1.5mmタイプで4mm程度の塗り厚にする。コテで何度もこすると艶が出てムラになるので、仕上げは一度で素早く塗り終える。

5. 施工後は夏場は2日以上、冬場は4日以上雨を避け養生する。湿度の高い梅雨時は3日以上雨を避け養生すること。



## 施工のポイント

- ・入隅を厚塗りするとクラックが出ることがあります。薄く仕上げる、又は1面ずつ施工日を変えて仕上げることで避けられます。また、クラックが出た場合はクラック部分に水を打ち、上から同じ色のカルクウォールを塗り込み、乾燥後サンドペーパーなどで補正してください。
- ・一度に厚みをつけ過ぎると、割れの原因につながります。
- ・カルクウォール骨材1.5mmタイプは、発泡スチロールのコテやウレタン製のコテ、またはプラスチックコテを使用することで亀甲状のクラックを防ぐことができます。スチールコテとウレタンコテは骨材が浮き出る仕上がりになり、プラスチックコテは骨材が沈む仕上がりになります。

# カルクウォール施工手順

## 養生する

幅木、廻り縁などは1.5～2.0mm程度あけて、マスキングテープでしっかりと養生してください。

※カルクウォールは強アルカリ性ですので、木材に付着すると木材が変色する恐れがあります。

木材が変色した場合は、酢を水で希釈し塗布すると変色が薄くなります。

## ミネラル下地材(H800)の塗布（下地処理後）

### 施工の前に

- ミネラル下地材の骨材は沈殿しやすいので、塗装中もこまめに攪拌しながら施工してください。
- ミネラル下地材は乾燥すると固く密着します。事前にサッシやスイッチ、コンセントなど、施工周辺の養生を確実に行ってください。

1. ミネラル下地材を攪拌機で3分程度十分に攪拌してください。
2. ローラーで下地が完全に白く隠れるまで塗装してください。  
(ミネラル下地材15kgで塗布面積 約40㎡～50㎡)  
※密着力が低下する為、50㎡以上塗り伸ばさないでください。  
※パテ部分は特に厚く塗装してください。
3. 24時間乾燥させます。

## カルクウォール(H540)の仕上げ施工(ミネラル下地材乾燥後)

### 施工の前に

- 冬季など気温が低く乾燥状態が悪い場合は色ムラを起こしやすいので、必ず暖房を入れ、こまめに換気してください。
- カルクウォールの乾燥中は水分が蒸発し室内に大量の湿気が発生するので、こまめに換気してください。
- 急激な乾燥や極端な厚みの差はクラックの原因になります。
- 濃い色で着色して仕上げる場合は、必ず色ムラができます。自然素材による特徴ですので予め施主に同意を得た上で施工して下さい。  
※ カルクウォール25kgバケツに、天然顔料ウラ0.375L × 2缶までを上限としてください。  
※ カルクウォール骨材1.5mmの着色は、色ムラが起こりやすくなります。

1. カルクウォールを攪拌機で3～5分程度、柔らかいクリーム状になるまで十分に攪拌します。バケツの底は攪拌しづらいのでよく確認しながら攪拌してください。
  2. 着色する場合はカルクウォールの攪拌後、天然顔料ウラ(No.410)をカルクウォールのバケツに加え、さらに3分程度十分に攪拌してください。
  3. 乾燥したミネラル下地材の上から、カルクウォールをコテで下こすりします。
  4. 下こすりしたカルクウォールが乾かないうちに、追っかけでカルクウォールを上塗りします。塗り厚は骨材0.5mmタイプで2mm程度、骨材1.5mmタイプは4mm程度を目安に塗ってください。また、コテで何度もこすると、艶ムラになります。仕上げは一度で素早く塗り終えてください。
- ※ マスキングテープはカルクウォールが半乾きの状態で剥がしてください。乾燥後に剥がすときれいに剥がれない場合があります。
- ※ 一度に厚みをつけすぎると、クラックの原因になります。一回あたりの塗り厚を越えないようにしてください。
- ※ アクが出た場合は上から「ファルベ」を補修材として塗装してください。(P.24 内装メンテナンス方法参照)
- ※ 調色の際、最初は濃く見えますが、乾燥して水が引くと色が薄くなります。
- ※ コテ等の道具は、使用後直ちに水洗いしてください。

## リフォームでの施工手順

昨今、ビニールクロスから塗り壁へリフォームする要望が増えてきました。ビニールクロスなどの呼吸しない室内は湿気が逃げ場を失いカビが発生し、気管支炎やアレルギーなどの健康被害を生む確率が高くなります。スイスウォールは、調湿性・消臭効果・防カビ効果に優れ、快適な室内環境に整えることで人の安全と健康を守る塗り壁材です。しかし、その使い方次第では、せっかくの快適な室内環境に影響を及ぼす恐れがあります。既存のビニールクロスの上から施工することによって予測される危険性もご理解の上、施工してください。

### ビニールクロスの上から施工すると・・・

- ・カルクウォールの重さに耐えられず、ビニールクロスの糊が経年によって剥がれる恐れがある。
- ・スイスウォールの調湿性が、ビニールクロスにより遮蔽される。
- ・ビニールクロスの糊を栄養源に、カビが繁殖する恐れがある。
- ・ビニールクロスの汚れがアクになり表面に浮き出る恐れがある（合板も同様）
- ・ビニールクロスの凹凸を拾い、スイスウォールの仕上がりパターンに影響が出る場合がある。

#### 施工の前に

- 割れの原因になりますので、なるべく石膏ボードは新しいものに貼り替えることをお勧めします。
- 石膏ボード、合板などの固定が悪く下地が動く場合は、ビス固定するか（P.16 ボードの貼り方参照）新しいボードに貼り替えてください。
- 合板は、劣化によるスイスウォールの剥離の恐れが高くなります。上から新しい石膏ボードに貼り直してください。

### 既存のビニールクロスをカルクウォールでリフォームする場合

#### ① クロスを剥がす



#### ② クロスの裏紙を剥がす



市販の壁紙はがし剤、または霧吹きで水を吹き付けるなどして裏紙を浮かし、ヘラなどで取り除いてください。裏紙が残っていると、次の作業の際に裏紙が浮いてくる可能性があります。

#### ③ パテ・テープ処理



石膏ボードの劣化・剥がれ・穴はパテ処理をし、表面を平滑にしてください。表面の凹凸は割れの原因になります。ジョイント部分の割れや段差がある場合にもパテで埋め、状態が悪ければ石膏ボードを貼り直して下さい。ボードのジョイント部分、出隅、入隅にはファイバーメッシュテープかジョイントテープを必ず貼ってください。（P.18 下地処理参照）

#### ④ ▲カチオン系 アク止めシーラーを2回塗る



塗り残しがあるとアクや色ムラが出る可能性があります。

#### ⑤ ミネラル下地材を塗る



ミネラル下地材を攪拌機で3分程度きっちりと攪拌し、ローラーで下地が完全に白く隠れるまで塗装してください。その後、24時間しっかりと乾燥させます。（P.21 カルクウォール施工手順参照）

#### ⑥ 仕上げ

カルクウォールを攪拌機で3～5分程度、柔らかいクリーム状になるまで十分に攪拌します。乾燥したミネラル下地材の上から、カルクウォールをコテで仕上げてください。（P.21 カルクウォール施工手順参照）

#### ▲ 注意事項

アク止めシーラーは市販品をご購入の上ご使用ください。  
 アク止めシーラーの中には有機溶剤の臭いや、刺激の強い商品があります。  
 アレルギー体質の方、小さなお子様が居られる場合には細心の注意の上ご使用ください。また、極度のアレルギー体質、過敏症の方は新しい石膏ボードに貼り替えることを推奨します。

#### 施工上の注意

アク止めシーラーで処理しても石膏ボードからアクが出る場合があります。

アクが出た場合は上から「ファルベ」を補修材として塗装してください。（P.24 内装メンテナンス方法）



# カルククリーム施工手順

## 養生する

幅木、廻り縁などは1.5～2.0mm程度あけて、マスキングテープでしっかりと養生してください。

※カルククリームは強アルカリ性ですので、木材に付着すると木部が変色する恐れがあります。

木部が変色した場合は、酢を水で希釈し塗布すると変色が薄くなります。

## ミネラルファイン(H802)の塗装（下地処理後）

### 施工の前に

- ミネラルファインの骨材は沈殿しやすいので、塗装中もこまめに攪拌しながら施工してください。
- ミネラルファインは乾燥すると固く密着します。事前にサッシやスイッチ、コンセントなど、施工周辺の養生を確実に行ってください。
- カルククリームは塗り厚が薄く、下地のパテ処理が透けて見える場合があります。下地が隠れるまでミネラルファインを塗装してください。

1. ミネラルファインを攪拌機で2～3分程度きっちりと攪拌してください。

2. ローラーで下地が完全に白く隠れるまで塗装してください。

（ミネラルファイン10kgで塗装面積 約35㎡～40㎡）

※密着力が低下する為、40㎡以上塗り伸ばさないでください。

※パテ部分は特に強く塗装してください。

3. 24時間しっかりと乾燥させます。

## カルククリーム(H556)の仕上げ施工（ミネラルファイン乾燥後）

- 冬季など気温が低く乾燥状態が悪い場合は、色ムラを起こしやすいので、必ず暖房を入れ、こまめに換気してください。
  - カルククリームの乾燥中は水分が蒸発し室内に大量の湿気が発生するので、こまめに換気してください。
  - 急激な乾燥や極端な厚みの差はクラックの原因になります。
  - 濃い色で着色して仕上げる場合は、必ず色ムラができます。自然素材による特徴ですので予め施主の同意を得た上で施工して下さい。
- ※ カルククリーム10kgバケツに、天然顔料ウラ0.375L×1缶までを混入の上限としてください。
- ※ 入隅やコーナー部分の色ムラを防ぐため、チリ際に毛先が届くローラーを選定してください。

1. カルククリームを攪拌機で2～3分程度、柔らかいクリーム状になるまで十分に攪拌します。

2. 着色する場合はカルククリーム攪拌後、天然顔料ウラ（No.410）をカルククリームのバケツに加えて、十分に攪拌してください。

3. 乾燥したミネラルファインの上から、カルククリームを中毛ローラー又はコテで塗ります。

塗り厚は0.5mm程度に塗ってください。中毛ローラーで塗布した場合、ローラーでツノができるため、やわらかいコテで表面を軽くヘッドカットするか、凹凸の無いウレタンローラーで押さえて仕上げてください。

※ マスキングテープはカルククリームが半乾きの状態で剥がしてください。乾燥後に剥がすときれいに剥がれない場合があります。

※ 一度に厚みをつけすぎると、クラックの原因になります。一回あたりの塗り厚を越えないようにしてください。

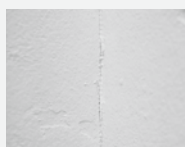
※ 万が一、アクが出た場合は上から「ファルベ」を補修材として塗装してください。（P.28 メンテナンスの方法）

※ 調色の際、攪拌当初は濃く見えますが、乾燥して水が引くと色が薄くなります。

※ コテ等の道具は、使用後直ちに水洗いしてください。

## 内装メンテナンス方法

### クラック（入隅など）



表面のヘアークラックや、ぶつけて少し剥がれた場合は、以下の方法で補修してください。

- 1 クラック周辺の表面を水（霧吹き、スポンジなど）で十分に濡らします。



- 2 カルクウォールを少量取り、クラック部分が少し盛り上がるように塗り付けます。余分なカルクウォールを取り除き、スポンジで表面を馴染ませるように整えます。



- 3 フラット仕上げの場合は、カルクウォールの乾燥後に#200以上の目の細かなサンドペーパーで表面の凹凸を軽く削り仕上げてください。



### 染み込んだ汚れ（醤油など）

- #200以上のサンドペーパーを使用し、表面を軽く研磨してください。



深く染み込んだ汚れは、一度汚れ部分を取り除いてください。取り除いた周辺を水（霧吹き、スポンジなど）で十分に濡らします。カルクウォールを補修部分が少し盛り上がるように塗り付けます。余分なカルクウォールを取り除き、スポンジで補修部分と周辺部分の表面を馴染ませるように整えてください。フラット仕上げの場合は、サンドペーパーで表面の凹凸を軽く削り仕上げてください。

### 表面的な汚れ（手垢など）

汚れの程度によってお試しください。

消しゴムを使用し表面の汚れを取り除いてください。消しゴムで消えないしつこい汚れは、メラミンスポンジを使用し汚れを取り除きます。



それでも消えない汚れは、#200以上の目の細かなサンドペーパーを使用し、表面を軽く研磨し汚れを取り除きます。



### アクが出た時

- 1 ミネラルファインをアクの色が隠れるまでローラーで塗ります。



- 2 ミネラルファインの乾燥後、ファルベをローラーで塗装します。



※カルクファルベで補修する際は、コテの表情が変わるため壁一面毎に仕上げてください。

※パターンの表現がばやけたりすることがあるため、細かなパターンやフラット仕上げの場合は目立たないところで試しを行ってください。

※ 着色仕上げの際は色合わせが必要です。攪拌直後と乾燥後の色が異なりますのでご注意ください。はじめは薄い色から作成し色合わせを行ってください。

※ 補修直後は少し目立ちますが、次第に馴染んできます。

※ カルクウォールを塗り重ねる場合は、ミネラル下地材を塗装してから行ってください。



# 外装メンテナンス方法

## 使用資材

ピューラックス®（次亜塩素酸ナトリウム6%）、シリカプライマー、エガリゼーション

## メンテナンス方法

### 除菌（ピューラックス®）

- ① ピューラックス®1Lに対して、水1Lの割合で希釈する。
- ② 汚れた箇所に①をローラーで塗布する。
- ③ 30分～1時間後、水シャワーで洗い流す。しつこい汚れはスポンジや柔らかいブラシで軽くこする。

※高圧洗浄機を使用すると、漆喰が剥離する場合があります。

※服や目は保護し、サッシ・植栽・ウッドデッキ・金属部分等に除菌液が付着しないよう養生してください。

### シリカプライマー塗装

ピューラックス®で汚れを落とし、乾燥（約24時間）後にスイスウォールが下地と固着していることを確認してからシリカプライマーを塗装します。

- ① シリカプライマー10Lに対して水5Lで希釈する。
- ② ①を塗布する。
- ③ 直後に②の上からシリカプライマーの原液を塗装する。
- ④ 約24時間、養生する。

参考塗装面積 原液6m<sup>2</sup>/L

注意：汚れを落とした箇所に密着不良や剥離が起きている場合はシリカシーラーが剥がれる可能性があるため、スイスウォールに直接手で触れて確認し、密着が弱い箇所は予めスクレイパーなどで剥離させる。

### エガリゼーション塗布

シリカプライマー施工後、スイスウォールが下地と固着していることを確認してからエガリゼーションを塗装します。

- ① エガリゼーション10kgに対して水3～5Lほどで希釈する。
- ② ローラーで全面を塗装する。
- ③ 2～4日間、養生する。

※汚れが隠蔽できない箇所については、再度上塗りを行ってください。

注意：下地のスイスウォールが固着していることを確認してください。固まっていない場合、剥離の原因となります。

※施工は完了後48時間は雨が降らない日を推奨します。

※ピューラックスは株式会社オーヤラックスの登録商標です。

詳細については弊社営業担当までご連絡ください。

## 外装の定期的なメンテナンスについて

| 状況                                 | メンテナンス方法   |
|------------------------------------|--|
| 外壁の表面的な汚れ<br>ほこりや泥、ばい煙<br>などで汚れた場合 | <p>高圧洗浄機を高圧で使用すると、漆喰が剥離する場合があります。</p> <p>高圧洗浄機は使用せず、水道水を使用し、壁の状態を確認しながら洗浄してください。</p> <p>※汚れの質や状態によっては、除去できない場合があります。</p>   |
| カビや藻が<br>発生した場合                    | <p>①カビ取り剤を塗布し殺菌した後、水道水で洗浄する。<br/>※高圧洗浄機を使用すると、漆喰が剥離する場合があります。</p> <p>②十分乾燥させた後、シリカプライマーをローラーで塗装し24時間以上乾燥させる。</p> <p>③シリカプライマーで下地が確実に固まったことを確認し、エガリゼーションをローラーで塗装するとより強い撥水効果を高めることができます。</p> |
| 塗り直す場合<br>(経年による汚れ)                | <p>下地と漆喰の密着の状態を確認し、漆喰の上からシリカプライマーをローラーで塗装し、24時間以上乾燥させる。その上からエガリゼーションを塗装し仕上げる。</p>  |

### ★凍害の補修

凍害の補修については弊社までご相談の上、補修いただくようお願いします。

### ★白華の補修

[補修前に]: 外壁表面に出てきた白い粉は、酸により洗い流すことが出来ます。

- ①漆喰が十分に乾燥し安定するのを待ち、乾燥した温暖な季節にミネラルファインをローラーで一面塗装し、24時間以上しっかりと乾燥させる。

### ★剥離の補修

- ①剥離した部分と、その周辺の密着の弱い部分をすべてケレンする。
- ②ケレンした部分とその周辺にミネラル下地材をローラー塗装する。
- ③翌日以降、ケレンした周辺の漆喰を水で十分湿らせ、スィスウォールを塗り24時間乾燥させる。
- ④＃180程度のサンドペーパーを用い補修した周辺部分を軽く研磨し、既存の漆喰となじませる。

詳細については弊社営業担当までご連絡ください。

## テクスチャーの仕上げ方



### コテ仕上げ ランダム

金ゴテを寝かせた状態でランダムにパターンを付けて仕上げます。ランダムにコテ目を付けることがポイントです。



### パターン付け 木ゴテ ランダム

木ゴテを寝かせた状態で表面の骨材を引っ張りながら曲線を描くようにパターンを付けて仕上げます。

(パターンを付けた後、金ゴテで表面をヘッドカットして仕上げることもできます。)



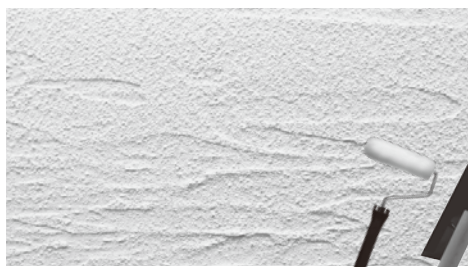
### パターン付け 木ゴテ 横引き＋ヘッドカット

木ゴテを寝かせた状態で表面の骨材を引っ張りながら横一定方向に動かしパターンを付けて仕上げます。最後に金ゴテで表面をヘッドカットして仕上げます。



### ブラシ仕上げ

ブラシを使用し、曲線を描くように模様をつけて仕上げます。コテ仕上げとは異なる柔らかな表情のある仕上げになります。



### ローラー仕上げ ヘッドカット

カルククリーム

入隅やコーナー部分のチリ際に毛先が届くローラーを使用し、厚みが均等になるように仕上げてください。最後に柔らかい金ゴテで表面をやさしくヘッドカットするか、凹凸の無いウレタンローラーで押さえて仕上げてください。

- 規定の厚み(骨材0.5mmで2～3mm)まで塗り付けた後の仕上げ方法です。
- 仕上げパターンは、施主立会いのもと、同意を得た上で施工することを推奨します。
- 同じ面や部屋は後できる限り一人で仕上げ、パターンに偏りがでないように仕上げてください。
- コテで何度もこするとマットになり艶ムラが出るため、仕上げは一度で素早く塗り終えてください。

## 本書で使用するスイスウォール製品ラインアップ

### 外 装

#### カルクファサード H500



外壁専用のスイスウォール(粉末タイプ)  
・骨材1.0mmタイプ:塗厚 2.0 mm程度  
・骨材2.0mmタイプ:塗厚 2.0mm-4.0mm

【全成分】ブナセルローズ繊維、ブナセルローズ粉、石灰粒、石灰粉、消石灰、白セメント、チョーク粉、でんぷん、アルミナ粉、鉱物顔料

### 内 装

#### カルクウォール H540



内装外壁に使用できる天然成分の本漆喰  
(既調合タイプ)

・骨材1.0mmタイプ:塗厚 2.0 mm程度  
・骨材1.5mmタイプ:塗厚 2.0mm-4.0mm

【全成分】ブナセルローズ繊維・ブナセルローズ粉、石灰粉・石灰粒・石灰泥、チョーク粉、リンシードスタンドオイル(亜麻仁油)、水、アルミナ粉、消石灰

### 内 装

#### カルククリーム H556



なめらかで純白のクリームのような  
天然スイスウォール

【全成分】石灰粒、石灰石、消石灰、チョーク粉、水、リンシードスタンドオイル(亜麻仁油)、アルミナ粉、ブナセルローズ粉、石灰泥

### 下 地 材

#### ミネラル下地材 H800



カルクウォール・カルクファサード  
専用下地材

【全成分】ブナセルローズ粉、カリ塩水ガラス、チョーク粉、水、大理石粉、大理石砂、オーガニックコンパウンド、タルカム、二酸化チタン

### 下 地 材

#### ミネラルファイン H802



カルククリーム・ファルベ  
専用下地材

【全成分】ブナセルローズ粉、カリ塩水ガラス、チョーク粉、水、大理石粉、オーガニックコンパウンド、タルカム、二酸化チタン

### 着 色 顔 料

#### リボス自然健康塗料 ウラ 410



スイスウォールに混ぜて調色する  
天然鉱物顔料(リボス)

【全成分】(カラーにより異なる)水・天然鉱物・ビーズワックスソープ・アマニスタンドオイル・ダンマル樹脂・天然樹脂グリセロールエステル・オレンジオイル・イソアリファート・エタノール・珪酸・メチルセルロース・ホウ砂・ホウ酸・タンバク質・シルバークロライド

### メンテナン

#### エガリゼーション H610



有機ケイ酸塩ベースの仕上げ剤  
新築時の汚れ防止  
硬化、撥水効果UPでメンテナンスにも◎

【全成分】セルローズファイバー、二酸化チタン、ケイ酸カリウム、石灰粉、チョーク粉、水、大理石粉、ポリマー分散、アルミナ粉

### メンテナン

#### ファルベ H630



アク・色ムラの補修、古い漆喰壁などの  
メンテナンスに

【全成分】ブナセルローズ粉、石灰粒、石灰石、消石灰、チョーク粉、リンシードオイル(亜麻仁油)、水、アルミナ粉、石灰泥

### メンテナン

#### シリカプライマー H805



シリカが浸透することで劣化した  
漆喰壁の補強に

【全成分】水、ケイ酸カリウム、セルローズファイバー/パウダー、分散剤



ひとと環境にやさしい住まいづくり  
株式会社イケダコーポレーション

ご注文・カタログのダウンロードはWEBから



【大阪本社】〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4丁目8-28 FJビル3F

☎0120-544-453 仙台・東京・名古屋・大阪・福岡 URL [www.iskcorp.com](http://www.iskcorp.com)